

環境で未来をクリエイトする  
**FULUHASHI**  
**EPO**  
REPORT 2020

●発行・お問合わせ先

**フルハシEPO株式会社**

〒460-0022

愛知県名古屋市中区金山1丁目14番18号

A-PLACE金山6階

TEL:052-324-9088 FAX:052-324-9188

<http://www.fuluhashi.co.jp/>



この印刷物は、有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。また、大豆油インクを包含した植物油インキと適切に管理された森林の木材を利用した FSC認証用紙を使用しています。

## Contents

- 02 編集方針
- 03 トップメッセージ
- 05 フルハシEPOの経営理念・タイムライン
- 06 コーポレートガバナンス
- 07 フルハシEPOの事業概要
- 09 フルハシEPOグループの事業概要
- 11 特集1 未来のエネルギーを切り開く～バイオマス発電所稼働～
- 13 特集2 フルハシEPOが考えるサステナビリティ  
～SDGsとのかかわり～
- 15 環境報告
- 19 社会性報告
- 21 会社概要
- 22 ネットワーク・拠点



### 編集方針

本レポートは、フルハシEPOグループの理念と事業の現状および環境や社会の取組みの年次報告書として、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを推進することを目的に発行しています。

参考ガイドライン 環境報告ガイドライン2018年版

報告対象範囲 フルハシEPOグループ

※環境報告および社会性報告のデータはフルハシEPO単体のデータです。

報告対象期間 2019年4月1日～2020年3月31日

※一部、対象期間外の取組みも紹介しています。

発行 2020年7月(次回2021年7月予定)

免責事項 本レポートには、当社の過去と現在の事実だけでなく、将来に関する予測・予想・計画などを記載しています。これらは、記述した時点での情報に基づいた仮定ないし判断であり、不確実性が含まれています。したがって、将来の事業活動の結果や将来に生じる事象が本レポートに記載した予測・予想・計画とは異なるものとなる恐れがあります。読者の皆様には、以上をご承知くださいますようお願い申し上げます。



Make the world better

# 環境で未来をクリエイトする

フルハシEPOは、地球環境の視点から真に必要なものをお客様の企業価値向上に役立つ製品、サービスとして創り出し、子どもたちが安心して暮らすことのできる持続可能な社会の実現を目指します。



木質資源のリサイクルから再生可能エネルギーの供給まで  
**持続可能な社会の実現に向けて  
 大きく飛躍します**

当社は1947年(昭和22年)に製材製函業として創業し、木質バイオマス資源の有効利用のパイオニアとして、70年以上にわたり循環型社会の構築に貢献してまいりました。木質系廃材からリサイクルチップを生産し、紙・パルプ原料や建材等に有効利用していただくほか、建設現場から生じる様々な木質系・非木質系副産物の再資源化事業等を展開しています。

これらの環境ソリューション事業に加えて近年はエネルギー創出事業にも参画し、2011年の川崎バイオマス発電所(神奈川県)に続いて、2019年10月に愛知県でCEPO半田バイオマス発電所が稼働を開始いたしました。再生可能エネルギーの供給拡大という、大きな節目を迎えたと同時に、今後20年間にわたり発電所に木質燃料を供給するという重要な使命を担っています。木質燃料の安定供給を強固にすべく、体制の強化を進めてまいります。

本レポートでは、2015年に国連総会において採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」について、当社が重点的に取組むテーマや企業活動とSDGsのつながりについて開示しました。木質バイオマスを用いたクリーンエネルギー創出事業を推進し、地球温暖化防止に貢献すること、そして新たな可能性にチャレンジし、積極的に技術開発に取組むこと等を掲げています。今後も業界のリーディングカンパニーとして、木質バイオマス資源の技術・サービス・ソリューションを通じて社会課題を解決してまいります。

新型コロナウイルス感染拡大による影響が、いまだ世界各地に及んでいます。当社の事業は社会のサプライチェーンを広く支えるものであり、これを継続していくことは重要な責務であると認識しています。緊急事態宣言に先んじて、原則管理部門、営業部門にはテレワークやテレビ会議システムを導入し、新入

社員にはテレワーク研修を実施するなど、感染防止策を徹底したうえで、迅速に意思決定を行い、対策を講じてまいりました。

当社の経営理念「世のため 人のため 地球のため 社員のため 持続可能な社会を実現する」に基づいてグループ一丸となり、末永く社会から必要とされる企業であり続けるために、今後も様々なステークホルダーの皆様に対する責任を果たしてまいります。

2020年7月

代表取締役社長

山口直彦



## フルハシEPOの経営理念

当社は健全な経営を行う企業として、以下の経営理念を掲げて事業を遂行しています。

### 世のため 人のため 地球のため 社員のため 持続可能な社会を創造します

経営理念を実現するために、当社で働く社員一人ひとりが同じ価値観をもち行動するための基本的な心構えを行動指針にまとめています。

#### FULUHASHI Spirits

##### 世の中にとて必要か? 正しいか? 環境にやさしいか?

###### 自ら未来を創造する

1 新しい可能性にチャレンジし、持続可能な社会を実現します。

2 お客様の立場に立って考え、ニーズに応えます。

3 プラス発想と行動力で付加価値を高めます。

4 知性・技術・感性を育て、使命感を持って仕事を取り組みます。

5 豊かなこころでユーモアを忘れず仕事を楽しめます。

## フルハシEPOタイムライン

フルハシEPOは1947年に製材製函業として創業し、1956年から木質バイオマスの利用に着手、製材過程で出る大量の端材を破碎したチップを紙の原料として製紙会社に納めるようになりました。1963年には物流に用いる荷役台「木製パレット」の製造が新たに事業に加わりました。

ところが、1973年に起きたオイルショックにより石油価格が高騰。一方で建設廃材が大量に野焼きされていたことを鑑み、当社の技術で燃料として原料化できないかと、1984年に燃料製造工場を稼働させました。1990年代からは国内外に拠点を拡大しています。

業界トップクラスの技術と環境への情熱は脈々と受け継がれ、2008年以降は、エネルギー創出事業を新たに展開しています。  
(詳細はp.11-12をご覧下さい。)



## コーポレートガバナンス

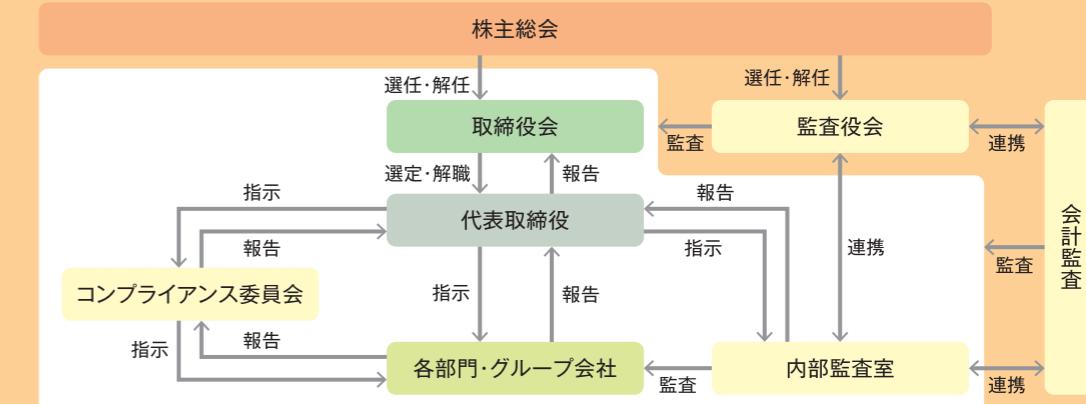
### 基本的な考え方

### コーポレート ガバナンス体制

当社は持続的な成長および中長期的な企業価値の向上を目指すとともに、法令順守と経営の透明性を確保するため、経営と執行に対する実効性の高い監督機能を確立し、様々なステークホルダーの信頼に応えることのできるコーポレートガバナンス体制の構築を重視し、さらなる体制の向上に継続して取組んでいきます。

- 2017年より社外取締役を選任、取締役8名中2名を社外取締役とする体制としています。
- 取締役の経営責任の明確化と経営の監督機能を強化しています。
- 2019年より社外監査役を選任、2020年監査役会を設置し、経営の適法性および健全性を監査します。

### コーポレートガバナンス体制



## フルハシEPOの事業概要

フルハシEPOは、環境ソリューション事業（木質バイオマス<sup>\*1</sup>および建設副産物のリサイクル・環境物流）そしてエネルギー創出事業を通じて、持続可能な社会の実現に貢献しています。

\*1 生物資源(bio)の量(mass)を表す概念で、一般的には「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」を示す。

## ►環境ソリューション事業

### 木質バイオマスのリサイクル (バイオマテリアル事業)

当社は、収集運搬ネットワークと最先端の技術を駆使し、製造業や建築現場から排出される木質資源(廃棄物)や建設副産物から木質リサイクルチップを生産しています。

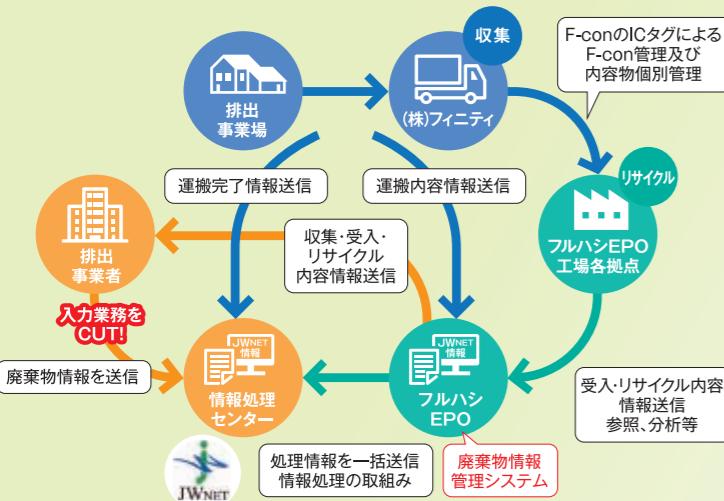
木質リサイクルチップは、紙・パルプ原料のほか、ボードなどの建材または化石燃料の代替となる木質バイオマス燃料として有効に活用されています。

### 建設副産物のリサイクル(資源循環事業)

新築現場から排出される様々な資材の副産物を徹底的に選別し、リサイクルすることで資源の有効利用を図ります。

当社が独自に開発した廃棄物情報管理システム「エリオット」は、廃棄物や収集運搬、リサイクル内容の情報を一元管理することにより、排出事業者からの依頼に迅速に対応することができる。さらに排出事業者はエリオットの情報を利用することにより、JWNETへの入力の手間を省くことができます。

建設副産物リサイクルの流れ



### 環境に配慮した物流機器(環境物流事業)

当社は、リサイクル資源の分別から効率的回収まで考慮した物流機器の製造販売、中古物流機器の買取や販売もしています。破損したパレットもリフォームすることにより再利用します。リサイクルできないパレットは木質資源として紙・パルプ原料のほか、ボード原料や木質バイオマス燃料として生まれ変わります。



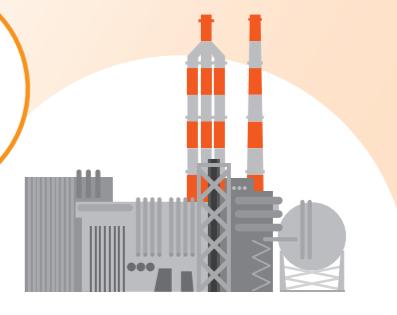
## ►エネルギー創出事業

### クリーンなエネルギーの創出

当社は、国内2カ所でバイオマス発電事業に参画しています。<sup>\*2</sup>石油・石炭などの化石燃料を使用せず、木質バイオマス燃料を使用するバイオマス専燃発電所は、周辺地域で発生する建設廃材から作られた木質チップ、樹木の間伐材、剪定枝などを利用しています。

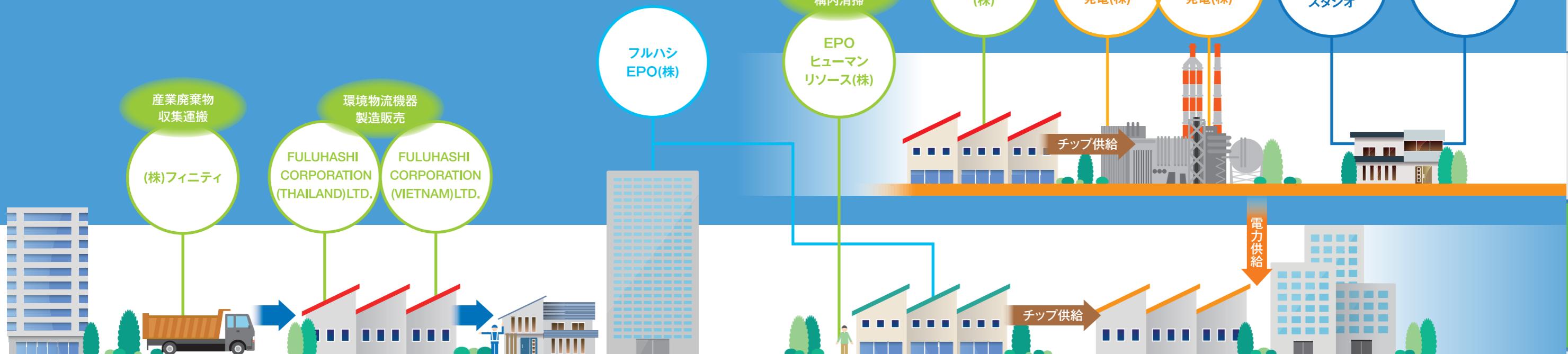
木質バイオマスを燃焼するとCO<sub>2</sub>が排出されますが、植物の成長過程で光合成により大気中のCO<sub>2</sub>を吸収するので、排出と吸収によるCO<sub>2</sub>のプラスマイナスはゼロになります。このような炭素循環は「カーボンニュートラル」と呼ばれ、大気中のCO<sub>2</sub>の濃度上昇の抑制に貢献します。

\*2 詳細はp.11-12をご覧ください。



# フルハシEPOグループの事業概要

フルハシEPOグループは、バイオマテリアル・資源循環・環境物流の3事業を通じて、持続可能な社会の実現に貢献しています。



## 株式会社フィニティ

株式会社フィニティは、収集・運搬および再生利用を行っています。

一貫したリサイクルシステムにより、産業廃棄物を的確に処理しています。

### 効率的な収集運搬システム・再生利用

独自のシステムによる効率的な収集により専用工場に集められた木質資源(廃棄物)は、パルプ用・燃料用チップとして生産され、コンクリートガラは再生碎石として、また

廃プラスチックはリサイクル燃料として生まれ変わります。株式会社フィニティは高度な技術力で廃棄物のリサイクルを推進し、現場のゼロエミッションに取組んでおり、住宅メーカー様や建築会社様からもご好評をいただいております。



## 株式会社フルハシ環境総合研究所

株式会社フルハシ環境総合研究所は、企業の持続可能な経営をサポートするコンサルティング会社です。

「CSR※1/SDGs※2推進」「環境経営支援」「環境人材育成」「BCP策定・運用」などの分野で

様々なソリューションを提供しています。環境省、愛知県、名古屋市などの行政の事業も支援しています。

### 行政支援

2019年度、フルハシ環境総合研究所は愛知県環境局の事業を企画・実施するなどサポートしました。

その一例として、家庭の消費行動に影響力を持つ子どもを通して家庭の食品ロス削減意識の高揚を図る、愛知県内の小学生を対象とした環境学習プログラムを企画・制作しました。

※1 企業の社会的責任

※2 持続可能な開発目標。2015年9月の国連サミットで採択された。



検索 食品ロスゼロのあいちに向けて

### 企業のSDGs活用をサポート

フルハシ環境総合研究所は、企業が優先して取組むべきSDGsを特定し、事業戦略と一体化して取組みを推進するための講演やワークショップを行っています。

2019年7月10日には新宿区立環境学習情報センターにおいて、SDGsの基礎を学び、事業者に導入・取組みを促すためのセミナーを開催しました。

#### 参加者の声

KPI※3の作成過程を通してSDGsの内容がよりリアルに理解できた。(エネルギー企業) ※3 重要業績評価指標



# 特集 1 未来のエネルギーを切り開く～バイオマス発電所稼働～

フルハシEPOグループは、地球温暖化をはじめとする環境保全への取組みを重要な経営課題のひとつに位置付けています。

具体的な取組みとして、国内2カ所でバイオマス発電事業に参画し、再生可能エネルギーの供給を通じて地球温暖化の防止、ひいては低炭素社会の構築に貢献しています。

## CEPO半田バイオマス発電所

当社は地球環境にやさしい再生可能エネルギーの供給を目的として、総合エネルギーサービスを行う株式会社シーエナジーと、2017年4月に愛知県半田市で特別目的会社「CEPO半田バイオマス発電株式会社」を設立し、2019年10月1日に営業運転を開始しました。CEPO半田バイオマス発電株式会社は、建設廃材など由来の木質リサイクルチップとバーム椰子殻を燃料とする出力50,000kWの木質バイオマス発電所です。両社一丸となって再生可能エネルギーの普及・拡大のため全力を挙げて努めてまいります。

発電出力 約50,000kW(発電端)  
年間発電量 一般家庭の約120,000世帯分  
CO2排出削減量 年間約15万トン

### 初並列式

2019年9月3日、CEPO半田バイオマス発電所燃料供給棟において、発電所内で発電した電力を系統へ流し込むべく送電網に初めて接続する「初並列式」を実施しました。



### 竣工式

CEPO半田バイオマス発電株式会社において、2019年11月22日にCEPO半田バイオマス発電所竣工式を執り行いました。

当日はフルハシEPO株式会社、株式会社シーエナジー、半田市長、半田市議会議長、ほか工事関係者を合わせた合計140名で発電所の完成を祝いました。



### 半田市環境保全協定調印式

2019年6月28日、半田市役所にて、当社およびCEPO半田バイオマス発電株式会社と半田市との環境保全協定締結調印式が行われました。

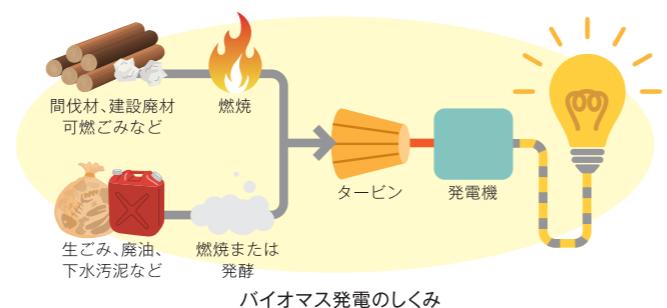
環境保全協定の締結により、地球温暖化の要因となる温室効果ガス排出量の削減および生物多様性の保全により一層努めています。



## バイオマス発電とは

バイオマス発電は、木質資源をはじめとする生物由来の資源(バイオマス)を燃料とする発電です。バイオマス発電は、太陽光発電や風力発電のように発電量が天候の影響を受けることはなく、通常の火力発電と同様に安定した電力を供給することができます。

バイオマス燃料を燃焼することでタービンを回し、発電機を動かすことで発電を行います。

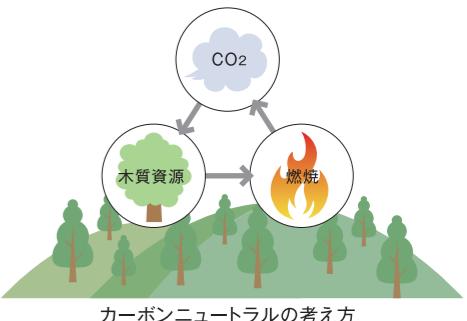


## CO2フリーとは～カーボンニュートラル～

CO2フリー電気とは、CO2を実質排出せずに発電された電気のことで、代表的なものとして再生可能エネルギーを利用した発電(太陽光、風力、水力発電など)が挙げられます。

植物を燃やすとCO2が排出されますが、植物の成長過程では光合成により大気中のCO2を吸収するので、排出と吸収によるCO2のプラスマイナスはゼロになります。

このような炭素循環を「カーボンニュートラル」といい、大気中のCO2の濃度上昇を抑制します。



# 特集 2 フルハシEPOが考えるサステナビリティ～SDGsとのかかわり～

フルハシEPOは、企業活動を通じて社会課題の解決に積極的に貢献していきます。

企業としてSDGsに取組むにあたり、当社の事業活動とかかわりの深い目標を抽出し、それぞれの関係を見出しました。

## 持続可能な開発目標(SDGs)

2015年9月、国連サミットにおいて「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。アジェンダでは行動指針として、2030年までの実現を目指す「持続可能な開発目標」(SDGs: Sustainable Development Goals)を掲げており、17の目標と169のターゲットに全世界が取組むことによって「誰一人取り残さない」社会の実現を目指しています。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## フルハシEPOの4つのテーマ

当社の企業活動は、SDGsの17の目標に広くかかわりますが、特に関係の深い6つの目標に重点を置いて推進していきます。

### テーマ 1

木質バイオマスを中心、クリーンエネルギー事業を推進、地球温暖化防止に貢献します。



### テーマ 2

新たな可能性にチャレンジし、積極的に技術開発に取組みます。



### テーマ 3

都市における木質資源リサイクル(資源循環)を強力に進め、廃棄物の削減と持続可能な街づくりに貢献します。



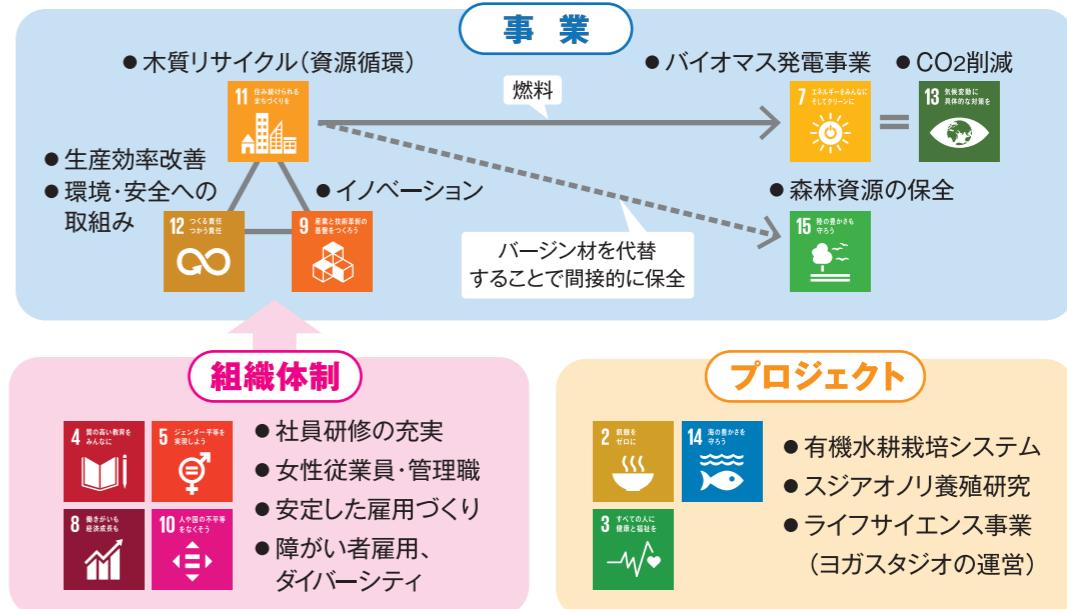
### テーマ 4

木質資源のリサイクルにより、国内外の過剰な森林資源の消費を抑制します。



## 企業活動とSDGsの関係

事業に深くかかわる6つの目標のほか、組織体制、プロジェクトに関する目標を含め、企業活動と各目標の相関関係を図式化しました。



## フルハシEPOのSDGs取組み

### 理解

フルハシEPOのSDGs取組み  
SDGsに関する理解向上を目的に、社員を対象としたSDGsの研修を実施しています。  
SDGsの趣旨や企業が取組む意義、フルハシEPOの企業活動との関連について講義やワークショップで学びます。



### 取組み

主力業務を通した貢献  
フルハシEPOは、主力業務として木質リサイクルチップの製造を行っています。建設副産物を廃棄物ではなく、資源として有効活用しています。製造された木質リサイクルチップの一部は、バイオマス発電燃料としてクリーンエネルギーを生み出しています。



### 報告

コミュニケーションと報告  
フルハシEPOではE(環境)、S(社会性)、G(企業統治)などの非財務情報を「フルハシEPOレポート」において開示しています。



環境報告1

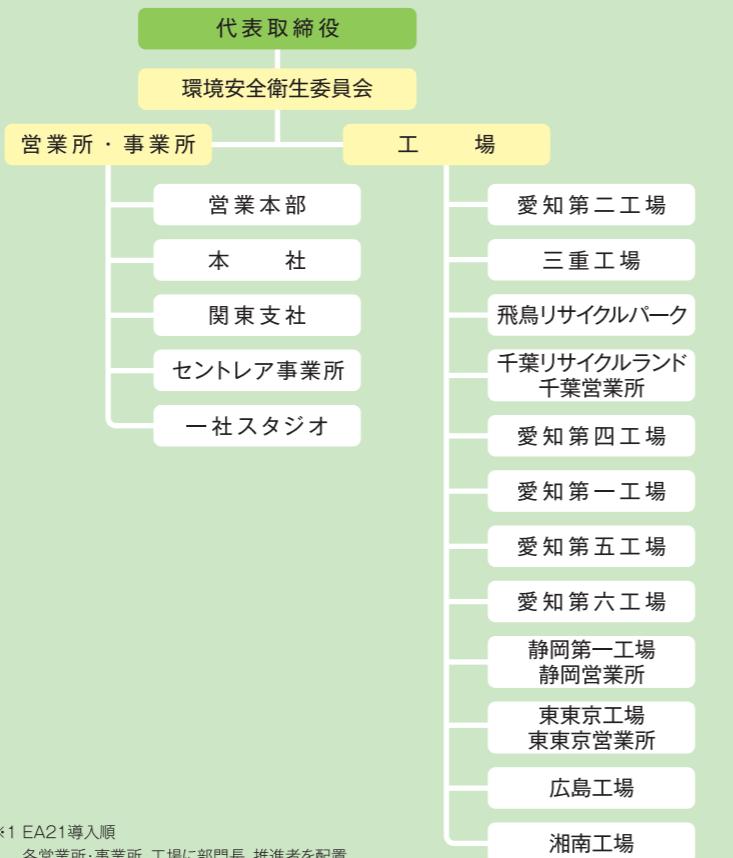
# 環境マネジメント&パフォーマンス報告

エコアクション21(EA21)に基づく環境マネジメントを推進しています。

## ● 環境マネジメント

エコアクション21(EA21)は、環境省が策定した環境マネジメントシステム(EMS)です。環境活動を継続的に改善する手法(PDCA)に基づき、組織や事業者などが環境への取組みを自主的に行うための方法を定めています。フルハシEPOは、環境マネジメントを継続的に推進するためにEA21を導入し、組織、役割および責任を定めています。

2019年5月現在、5営業所・事業所、12工場の合計17拠点で運用を行っています。

組織体制表<sup>※1</sup>

## ● 環境安全衛生委員会

フルハシEPOの環境・安全衛生活動を全社に浸透・共有させるために、月に1回環境安全衛生委員会を開催しています。

年間計画に沿って、重点実施項目を毎月各拠点で実施し、結果を委員会で報告・検討しています。



## ● エコアクション21更新審査

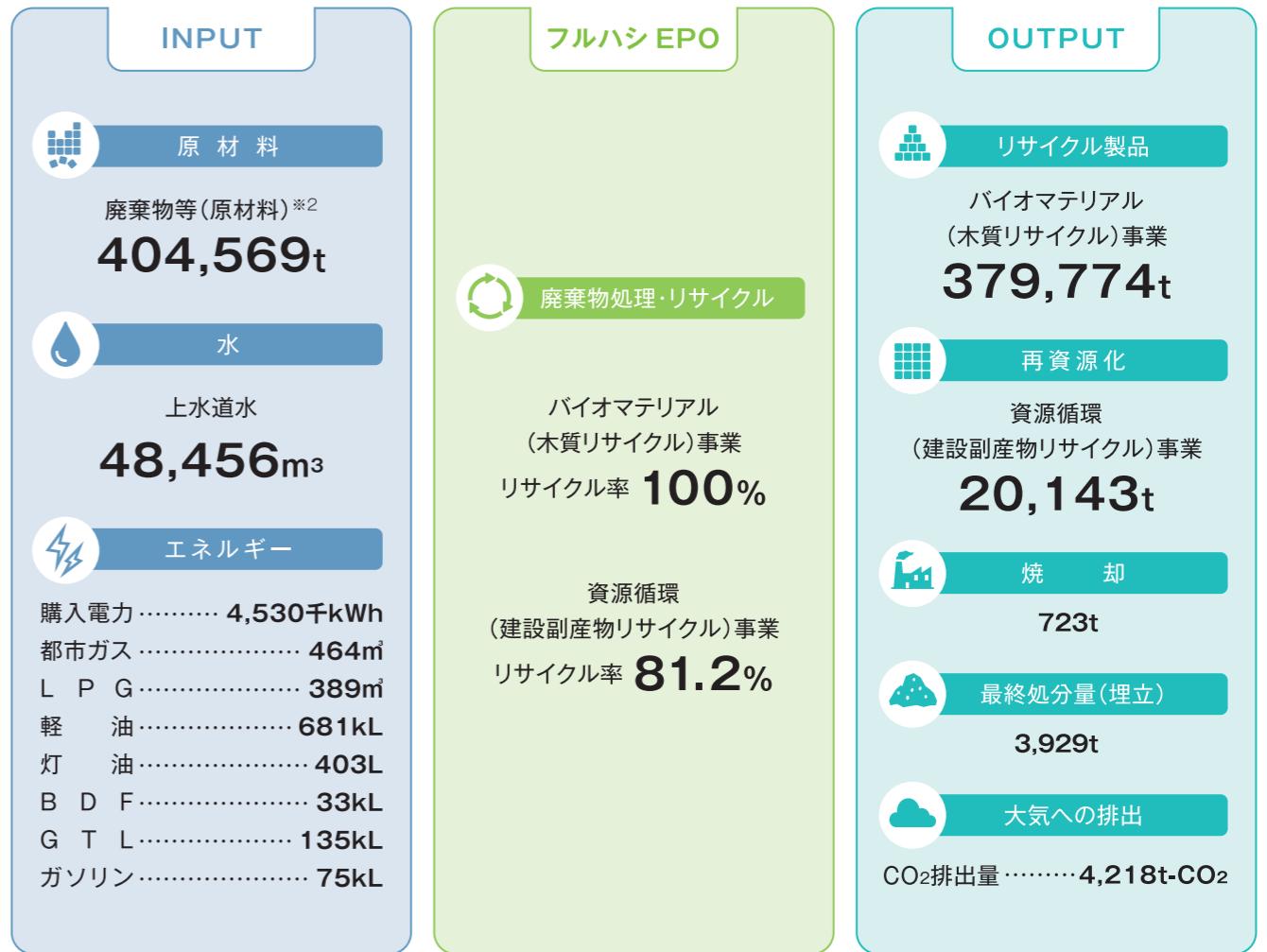
2019年度EA21の更新審査が行われました。書類審査に加え、全17拠点の内5拠点では現地審査も行われました。その結果、全拠点の認証を継続することができました。



## ● 事業活動にともなう 環境負荷の全体像

当社では、事業活動にともなう原材料、資源やエネルギーなどの利用量および環境負荷量を、INPUT→OUTPUT(インプット・アウトプット)データとして把握し、さらなる環境負荷低減、リサイクル率の向上に向けて様々な取組みを進めています。

よりグリーンな経営、生産活動を目指すことを環境方針に掲げ、各拠点において「上水道水の使用量削減」や「ムリ・ムダ・ムラの削減」「省資源・低エネルギー化」を推進しています。



※2 廃棄物等を入荷し、チップ化・選別などリサイクルして出荷した量をINPUTとみなしています。

## 環境に関する取組み

環境報告2 優良産廃処理業者認定を取得したほか、各種研修を実施しています。

### ● 優良産廃処理業者に認定

優良産廃処理業者認定制度とは、通常の許可基準よりも厳しい基準に適合した優良な産廃処理業者を、都道府県・政令指定都市が審査して認定する制度です。

認定を受けた産廃処理業者は、遵法性や事業の透明性の高さはもちろん、環境に配慮した事業活動を行っており、財務内容も安定していると行政に認められたこととなるため、お客様にとっても安心してお取引いただけます。

当社は三重県の優良認定を2019年5月31日に、続いて静岡県の優良認定も2020年4月13日に取得しました。

引き続き全拠点での優良認定取得に向けて、事業活動を進めてまいります。



### ● eco検定の取得

eco検定とは東京商工会議所および各地の商工会議所が主催している環境教育の入門編の検定試験であり、「自然環境」や「環境と社会・経済の関係」など、環境に関する基礎知識が問われます。

当社は全社員合格を目指しており、毎月発行される社内報において環境について解説する「ecoピープル」のコーナーを設けています。さらにグループ会社のフルハシ環境総合研究所による受験対策講座を実施しています。2019年度は6月23日に対策講座を開催し、14名が受講しました。2019年度までの合格者は113名です。



### ● 環境研修(エコアクション21研修)

フルハシEPOグループの安全・環境意識の向上・マネジメントシステムのレベルアップのため、2020年2月19日に社内研修を開催しました。

2019年度はEA21についての研修が行われ、活動を行うにあたって必要な知識や審査時の対応について説明が行われました。また、各拠点で活動についての数値を管理すること、環境活動計画書の記入・目標設定・評価方法についても改めて説明がなされました。



### ● 環境研修(内定者研修)

2019年8月26日に2020年度入社内定者の第1回内定者研修・見学会を行いました。内定者13名が面談の後、川崎バイオマス発電所とジャパンバイオエナジーの施設を見学しました。

2019年10月1日には第2回内定者研修を開催し、当社事業についてさらに理解を深めると同時に、参加型のワークショップ「エコ・ネイショングーム」で、環境政策と経済活動の両立の大切さを体験しました。



### ● 未来への挑戦

次の柱となる環境事業を目指す3つのプロジェクトを推進しています。

国内の森林資源を有効活用する「グリーン・ジャパン・プロジェクト」、海洋バイオマス開発を行う「ブルー・オーシャン・プロジェクト」、有機栽培に挑戦する「オレンジ・サン・プロジェクト」についてご紹介します。

#### グリーン・ジャパン・プロジェクト (GJP)

日本の国土の2／3を占める森林では、多くの樹木が樹齢50年を超える伐期を迎えています。これら森林資源は、木材として住宅や家具以外にも各種産業で幅広く活用される日本に豊富に存在する天然資源であり、木質バイオマスと呼ばれます。

我々の生活を長きにわたり支えた木材を、当社工場で受け入れ木質チップに加工・製紙原料や木質建材などの原料としてリサイクル。あるいは石油代替燃料として、川崎バイオマス発電所(2011年稼働)、CEPO半田バイオマス発電所(2019年稼働)にて、活用されています。木質バイオマスのエネルギー変換は、樹木の成長過程で大気から吸収した炭素を活用するもので「カーボンニュートラル」と評されます。



#### ブルー・オーシャン・プロジェクト (BOP)

日本の国土面積は38万km<sup>2</sup>ですが、海で囲まれた日本の排他的経済水域(EEZ: Exclusive Economic Zone)は領海を合わせて世界第6位の447万km<sup>2</sup>になります。この広大な海洋を有効活用することにより、大規模な海洋バイオマス生産が期待できます。

BOPでは、海洋バイオマス生産およびその有効活用(資源・エネルギー・工業原料・食糧・医薬品など)を目指して研究開発を進めています。現在は、光合成が旺盛で成長が速く、高いCO<sub>2</sub>吸収力が期待できる緑藻類「スジアオノリ」に着目し、富山県入善町において海洋深層水を利用した陸上養殖に取り組んでいます。

将来的には更なる分析を進め、食糧に限らず医薬、工業原料などとしても活用できるような技術開発を目指しています。



#### オレンジ・サン・プロジェクト (OSP)

農業に限らず、林業、水産業などの第一次産業において、従事者は高齢となり、後継者問題を抱えています。平野部においては、放置された農地(耕作放棄地)が目立つようになりました。

OSPでは、その耕作放棄地を借受け稲の有機栽培に取り組んだ後、近年では農業用ハウスにおいて無農薬・無化学肥料で行う有機水耕栽培の技術確立を進めています。後継者問題のある農業において、労働生産性を高め、周年栽培を通して、農業による収益を高める仕組みを展望し、基礎的な栽培システムを特許化いたしました。(特許第6347878号)

私たちは、「always ecology, forever healthy.」の理念のもと、真に安心・安全な食を提供するシステムを構築し、持続可能な社会構築に資することを目指しています。



# 社会性報告 地域社会や社員とのかかわり

地域社会への貢献や社内活動を積極的に推進しています。

## ● 災害廃棄物の受け入れ

2019年関東地方では、9月に台風15号、10月に台風19号が直撃、また、台風21号に伴う記録的な大雨もあり、自然災害は各所に甚大な被害をもたらしました。道路の冠水、大規模停電もあり、当社の千葉リサイクルランドも臨時休業をせざるを得ない状況でした。

千葉県内の住宅被害は6万8,000棟以上にものぼり、県内の災害廃棄物は28万トンを超える、今なお完全復旧には至っていません。

当社千葉リサイクルランドにおいても、2019年9月、10月と千葉県災害廃棄物処理実行計画に基づき、一般社団法人千葉県産業資源循環協会の一員として、倒木等を一部受け入れました。被災された方々が少しでも早く安心した生活を取り戻せるよう、今後も、安全、迅速、再生利用に配慮し各所と連携し、積極的に社会貢献に努めます。



被災材の受け入れ



消防訓練(岐阜第一工場)



負傷者救助訓練(愛知第一工場)

## ● 全社一斉防災訓練

当社は毎年9月に全社一斉に防災訓練を実施しており、2019年度は9月2日に行いました。

各工場・事業所において防災・防火訓練計画、マニュアルに沿って、事前に自己の防災担当の確認をし、当日は集合や避難、消火などに要した時間を計測しました。また、防災設備や非常用備品の点検、緊急連絡網の確認などもあわせて行いました。

実際の災害時に冷静さを保ち、自分の役割を果たすためには繰り返し訓練を実施し、行動として身につけることが重要であると考え、今後も緊張感をもって訓練を継続していきます。

## ● ルーキーキャンプ

2019年6月8日に、入社1~2年目の社員を対象に毎年恒例の社員研修「ルーキーキャンプ」を開催し、本社地区14名、関東地区7名がそれぞれ参加しました。

本社地区では愛知県尾張旭市の「愛知県森林公園」にて第70回全国植樹祭の会場を見学、半田市の「MIZKAN MUSEUM」にて施設見学をした後、CEPO半田バイオマス発電所にてシキザクラとサザンカの植樹を行いました。

関東地区では、「木材合板博物館」にてウッドバーニング体験、「かわさきエコ暮らし未来館」で施設見学をした後、ジャパンバイオエナジー株式会社にて大島桜を植樹しました。

社員同士の交流を深めるとともに、植樹を通じて、木を扱う企業としての責任を改めて考え、植樹した木々とともに社員の成長を願う機会となりました。



CEPO半田バイオマス発電所での植樹

## ● 清掃活動

2019年11月22日に名古屋木材組合会員企業(飛島地区:239社、弥富地区:121社)が道路美化一斉清掃を行い、当社も参加しました。飛島地区では可燃ごみ560kg、不燃ごみ460kg、プラスチックごみ320kgを回収、弥富地区では可燃ごみ510kg、不燃ごみ170kgを回収しました。同時に側溝の土砂(27m<sup>3</sup>)の清掃も行いました。

一斉清掃に限らず、今後も定期的に清掃を継続してきます。



清掃活動(愛知第二工場)

## ● メッセナゴヤ2019へ出展

2019年11月6日~9日の4日間、ポートメッセなごやにおいて「メッセナゴヤ2019」が開催され、フルハシEPOグループも「環境で未来をクリエイトする Make the world better!」をテーマにブース出展しました。

経営理念に基づいた当社の持続可能な開発目標(SDGs)活動の紹介から始まり、当社の事業やオレンジ・サン・プロジェクト(OSP)の水耕栽培における特許について紹介しました。

期間中、多くのお客様にご来場いただき、当社の事業を知っていただく良い機会となりました。



当社ブースの様子

## ● 湘南ひらつかテクノフェア

2019年10月17日~19日に開催された「湘南ひらつかテクノフェア2019」に参加し、地元企業との繋がりを図りました。

地域の新たな可能性を探り、地域産業の活性化を図ることを目的としたビジネスマッチングイベントとして開催された本イベントには、関東支社から当社湘南工場担当者が出展企業ブースを訪問し、名刺交換や当社のアピールを行いました。今後も当社をアピール、商談する場として展示会には積極的に参加、出展していきます。



湘南ひらつかテクノフェア

## フルハシEPOは「グローバル・コンパクト」に参加しています

### グローバル・コンパクト・ネットワークジャパン(GCNJ)SDGsビジネスセミナーへ参加

2005年に署名参加している国連グローバル・コンパクト、その国内ネットワークであるGCNJが、2019年8月2日にウインクあいちにてSDGsビジネスセミナーを開催し、当社もGCNJ東海地区企業として参加しました。

パネルディスカッション「SDGsと環境経営」では、研究開発部長が登壇し、当社の事業活動とSDGsとのかかわり、定着活動、今後の課題を他企業と議論しました。

SDGsのすべての目標は環境と社会の課題に結びついています。環境に携わる企業として今後も積極的に推進していきます。



セミナーの様子

## 会社概要

国内外のネットワークを活かし  
お客様のニーズに応えます



- 社名 フルハシEPO(フルハシイーピーオー)株式会社
- 創立 1947年12月
- 設立 1948年2月
- 資本金 3億1,000万円
- 役員 代表取締役社長 山口直彦  
代表取締役副社長 山口昭彦
- 本社 愛知県名古屋市中区金山1丁目14番18号 A-PLACE金山6階
- 従業員数 290名
- 事業内容 木質バイオマス・プラスチックリサイクル、建設副産物リサイクル、各種物流機器の製造販売、ヨガスタジオ

建設業許可 愛知県知事許可(般-31)第105504号  
産業廃棄物処分業許可 愛知県・豊田市・三重県・静岡県・岐阜県・千葉県・千葉市・  
神奈川県・広島市  
産廃収集運搬業許可 愛知県・三重県・岐阜県・滋賀県  
一般廃棄物処分業許可 春日井市・豊田市・弥富市・清須市・半田市・川越町・  
掛川市・千葉市  
古物商許可 神奈川県 第451380005380号(平成22年1月12日)  
千葉県 第441010002368号(平成24年8月30日)  
愛知県 第541191300500号(平成25年7月9日)  
広島県 第731291400036号(平成26年12月3日)  
静岡県 第49122A000003号(平成28年7月14日)

## ネットワーク・拠点

